

量子工学専攻

＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期	
主専攻科目	基礎科目	講義 量子工学特論	齋藤 弥八 教授, 井口 哲夫 教授, 曾田 一雄 教授, 水谷 孝 教授, 藤巻 朗 教授, 岩田 聡 教授	2	1年前期, 2年前期	
		ナノ構造評価学セミナー1A	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期	
	ナノ構造評価学セミナー1B	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期		
	ナノ構造評価学セミナー1C	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期		
	ナノ構造評価学セミナー1D	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期		
	主分野科目	ナノ構造解析学セミナー1A	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	1年前期	
		ナノ構造解析学セミナー1B	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	1年後期	
		ナノ構造解析学セミナー1C	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	2年前期	
		ナノ構造解析学セミナー1D	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	2年後期	
		量子ビーム計測工学セミナー1A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	1年前期	
		量子ビーム計測工学セミナー1B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	1年後期	
		量子ビーム計測工学セミナー1C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	2年前期	
		量子ビーム計測工学セミナー1D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	2年後期	
		量子ビーム物性工学セミナー1A	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	1年前期	
		量子ビーム物性工学セミナー1B	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	1年後期	
		量子ビーム物性工学セミナー1C	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	2年前期	
		量子ビーム物性工学セミナー1D	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	2年後期	
		ナノデバイス工学セミナー1A	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	1年前期	
		ナノデバイス工学セミナー1B	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	1年後期	
		ナノデバイス工学セミナー1C	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	2年前期	
		ナノデバイス工学セミナー1D	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	2年後期	
		量子集積デバイス工学セミナー1A	藤巻 赤池 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 藤巻 宏之 助教	2	1年前期	
		量子集積デバイス工学セミナー1B	藤巻 赤池 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 藤巻 宏之 助教	2	1年後期	
		量子集積デバイス工学セミナー1C	藤巻 赤池 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 藤巻 宏之 助教	2	2年前期	
		量子集積デバイス工学セミナー1D	藤巻 赤池 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 藤巻 宏之 助教	2	2年後期	
		量子スピンドバイス工学セミナー1A	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年前期	
		量子スピンドバイス工学セミナー1B	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年後期	
		量子スピンドバイス工学セミナー1C	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	2年前期	
		量子スピンドバイス工学セミナー1D	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	2年後期	
		講義	ナノ構造評価学特論	佐々木 勝寛 准教授	2	1年後期, 2年後期
			ナノ構造解析学特論	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授	2	1年前期, 2年前期
			量子ビーム計測学特論	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授	2	1年後期, 2年後期
			量子ビーム物性工学特論	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授	2	1年前期, 2年前期
	量子ナノデバイス工学特論		水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授	2	1年後期, 2年後期	
	量子集積デバイス工学特論		藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授	2	1年前期, 2年前期	
	磁性体工学特論		岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年前期, 2年前期	
	量子材料設計学特論		村田 純教 准教授, 寺田 芳弘 准教授	2	1年前期	
	量子基礎工学特論		井上 順一郎 教授	2	2年後期	
	エネルギー機能材料工学特論		松井 恒雄 教授, 祐原 淳司 准教授	2	2年前期	
	電磁応用計測特論		河野 明廣 教授, 佐々木 浩一 准教授	2	1年後期, 2年後期	
	半導体工学特論		天野 浩 教授, 山口 雅史 准教授	2	1年前期, 2年前期	
	ナノプロセス工学特論		堀 勝 教授, 関根 誠 教授	2	1年後期	
	光量子工学特論		川瀬 晃道 教授, 西澤 典彦 准教授	2	1年後期	
	量子工学特別講義1		非常勤講師 (量子)	1	1年前期後期, 2年前期後期	
	量子工学特別講義2		非常勤講師 (量子)	1	1年前期後期, 2年前期後期	

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期	
主専攻科目	主分野科目	実験・演習	ナノ構造評価学特別実験及び演習	佐々木 勝寛 准教授	4	1年前期, 1年後期
			ナノ構造解析学特別実験及び演習	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	4	1年前期, 1年後期
			量子ビーム計測学特別実験及び演習	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授	4	1年前期, 1年後期
			量子ビーム物性工学特別実験及び演習	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	4	1年前期, 1年後期
			ナノデバイス工学特別実験及び演習	水谷 孝 教授, 岸本 茂 助教, 大野 雄高 准教授	4	1年前期, 1年後期
			量子集積デバイス工学特別実験及び演習	藤巻 朋 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	4	1年前期, 1年後期
			量子スピンドバイス工学特別実験及び演習	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	4	1年前期, 1年後期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目				
総合工学科目		高度総合工学創造実験	井口 哲夫 教授	3	1年前期後期, 2年前期後期	
		研究インターンシップ	松村 年郎 教授	2~4	1年前期後期, 2年前期後期	
		最先端理工学特論	田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期	
		最先端理工学実験	田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期	
		コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1	1年後期, 2年後期	
		実践科学技術英語	石田 幸男 教授	2	1年前期, 2年前期	
		科学技術英語特論	非常勤講師 (子機)	1	1年後期, 2年後期	
		ベンチャービジネス特論 I	田淵 雅夫 准教授	2	1年前期, 2年前期	
		ベンチャービジネス特論 II	田淵 雅夫 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2	1年後期, 2年後期	
		学外実習 A	各教員 (量子)	1	1年前期後期, 2年前期後期	
	学外実習 B	各教員 (量子)	1	1年前期後期, 2年前期後期		
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目				
研究指導						
履修方法及び研究指導						
<p>1. 以下の一～四の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目：</p> <p>イ 基礎科目2単位以上</p> <p>ロ 主分野科目の中から、セミナー8単位、講義4単位、実験・演習4単位を含む16単位以上</p> <p>二 副専攻科目の中から4単位以上</p> <p>三 総合工学科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>四 他研究科等科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>						

量子工学専攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	ナノ構造評価学セミナー2A	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期
		ナノ構造評価学セミナー2B	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期
		ナノ構造評価学セミナー2C	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期
		ナノ構造評価学セミナー2D	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期
		ナノ構造評価学セミナー2E	佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	3年前期
		ナノ構造解析学セミナー2A	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	1年前期
		ナノ構造解析学セミナー2B	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	1年後期
		ナノ構造解析学セミナー2C	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	2年前期
		ナノ構造解析学セミナー2D	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	2年後期
		ナノ構造解析学セミナー2E	齋藤 弥八 教授, 秋本 晃一 准教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2	3年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	1年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	1年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	2年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	2年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2E	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 助教	2	3年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2A	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	1年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2B	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	1年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2C	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	2年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2D	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	2年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2E	曾田 一雄 教授, 八木 伸也 准教授, 加藤 政彦 助教	2	3年前期
		ナノデバイス工学セミナー2A	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	1年前期
		ナノデバイス工学セミナー2B	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	1年後期
		ナノデバイス工学セミナー2C	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	2年前期
		ナノデバイス工学セミナー2D	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	2年後期
		ナノデバイス工学セミナー2E	水谷 孝 教授, 大野 雄高 准教授, 岸本 茂 助教	2	3年前期
		量子集積デバイス工学セミナー2A	藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	2	1年前期
		量子集積デバイス工学セミナー2B	藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	2	1年後期
		量子集積デバイス工学セミナー2C	藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	2	2年前期
		量子集積デバイス工学セミナー2D	藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	2	2年後期
		量子集積デバイス工学セミナー2E	藤巻 朗 教授, 井上 真澄 准教授, 赤池 宏之 助教	2	3年前期
		量子スピンドデバイス工学セミナー2A	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年前期
		量子スピンドデバイス工学セミナー2B	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年後期
量子スピンドデバイス工学セミナー2C	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	2年前期		
量子スピンドデバイス工学セミナー2D	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	2年後期		
量子スピンドデバイス工学セミナー2E	岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	3年前期		
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			
総合工科学科目		実験指導体験実習1	井口 哲夫 教授	1	1年前期後期 2年前期後期
		実験指導体験実習2	田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期 2年前期後期
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目			
研究指導					
履修方法及び研究指導					
<p>1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>					

9. 量子工学専攻

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 2年前期	
教員	曾田 一雄 教授 齋藤 弥八 教授 井口 哲夫 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子工学の基礎となる量子ナノ構造解析学、量子ビーム工学、量子ナノエレクトロニクスについて、その概要を学ぶ。 達成目標 1. 量子工学の基礎的事項について理解し、説明できる。 2. 量子工学の技術体系の中で、各自の取り組んでいる研究分野の位置づけ及び他分野との関連性を理解できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、固体物性、半導体工学、回折結晶学		
●授業内容		
1. ナノ構造評価の概要 2. ナノ構造解析の概要 3. 量子ビーム計測の概要 4. 量子ビーム物性の概要 5. 量子ナノデバイスの概要 6. 量子集積デバイスの概要 7. 量子スピンデバイスの概要 を各2回ずつオムニバス形式で紹介する。		
●教科書		
特になし。各教員より、適宜、講義資料を配布予定。		
●参考書		
特になし。各教員より、適宜、引用文献等が示される。		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは同等である。 7つの授業テーマ毎に小レポート課題が課され、各々14.7%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造評価学セミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を行える基礎を築く。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造評価学セミナー1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを適宜輪読する。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポートあるいは口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程
	ナノ構造評価学セミナー1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎および応用を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を展開できるようになる。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造評価学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 晋春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎および応用を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を展開できるようにする。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造解析学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。		
達成目標 1. カーボンナノチューブに関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akinoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造解析学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。		
達成目標 1. カーボンナノチューブに関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akinoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造解析学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。		
達成目標 1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akinoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ構造解析学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び論議・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。 達成目標 1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
論議する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム計測工学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を論議・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 量子ビーム計測技術全般に関して、基本的事項を理解し、説明できる。 2. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
1. 量子ビーム物理シミュレーション 2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス 3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス 4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス		
●教科書		
論議する教科書：'Radiation Detection and Measurement 3rd Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2000) また、セミナーの進行に合わせて、レビュー的な関連学術論文を適宜選定する。		
●参考書		
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など		
●成績評価の方法		
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム計測工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を論議・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。 2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題を見つけることができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
1. 量子ビーム物理シミュレーション 2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス 3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス 4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス		
●教科書		
論議する教科書：'Radiation Detection and Measurement 3rd Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2000) また、セミナーの進行に合わせて 関連学術論文を適宜選定する。		
●参考書		
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など		
●成績評価の方法		
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム計測工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を論議・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。 達成目標 1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できるとともに、内容について議論できる。 2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題の対処法について考察できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
1. 量子ビーム物理シミュレーション 2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス 3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス 4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス		
●教科書		
論議する教科書：'Radiation Detection and Measurement 3rd Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2000) また、セミナーの進行に合わせて 関連学術論文を適宜選定する。		
●参考書		
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など		
●成績評価の方法		
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム計測工学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を輪読・発表し、量子ビーム物理、電子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。 達成目標 1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できるとともに、内容について議論できる。 2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題の対処法について提案できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
1. 量子ビーム物理シミュレーション 2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス 3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス 4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス		
●教科書		
輪読する教科書: 'Radiation Detection and Measurement 3rd Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2000) また、セミナーの進行に合わせて関連学術論文を適宜選定する。		
●参考書		
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など		
●成績評価の方法		
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム物性工学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性		
●授業内容		
1. 反磁性と常磁性 2. 交換相互作用 3. 自由電子の交換相互作用 4. バンド強磁性 5. 強磁性体の磁気相転移 6. 局在電子の強磁性結合 7. 反強磁性 8. スピン波 9. バンド電子の運動と正孔 10. バンド内の電子散乱 11. ホルツマン方程式 12. 金属の電気伝導度 13. 熱電効果 14. ヴァイデマン・フランツ則 15. 局在電子の伝導		
●教科書		
H. Ibach and H. Luth, Solid State Physics (3rd edition), (Springer-Verlag, Tokyo 2003)		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表 (60%) と質疑応答 (40%) 質問への対応: セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム物性工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。 達成目標: 物質の原子配列と電子構造に基づいて固体とその表面・界面の特性を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性		
●授業内容		
1. 超伝導 2. ロンドン方程式 3. クーパー対とBCS基底状態 4. BCS理論 5. マイスナー効果 6. 磁束の量子化 7. 高温超伝導体 8. 誘電関数 9. 電磁波の吸収と反射 10. 誘電関数の振動子モデル 11. 局所場 12. 自由電子の応答、帯間遷移、助起子 13. 半導体の電荷担体密度 14. 半導体の電気伝導度 15. 演習		
●教科書		
H. Ibach and H. Luth, Solid State Physics (3rd edition), (Springer-Verlag, Tokyo 2003)		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表 (60%) と質疑応答 (40%) 質問への対応: セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム物性工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性		
●授業内容		
1. 表面と界面の物理: 定義と重要性 2. 超高真空技術 3. 表面、界面、薄膜の作製 4. 分子線エビタキシー 5. 表面エネルギーと巨視的形態 6. 緩和、再構成、欠陥 7. 表面2次元格子、超格子構造、逆格子 8. 固体-固体界面の構造モデル 9. 薄膜の成長様式 10. 株形成 11. 物理吸着 12. 化学吸着 13. 吸着層の相転移 14. 吸着反応 15. 演習		
●教科書		
H. Luth, Solid Surfaces, Interfaces and Thin Films(4th edition), (Springer, Tokyo 2001)		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表 (60%) と質疑応答 (40%) 質問への対応: セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子ビーム物性工学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	曾田 一徳 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の現々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 表面格子振動 2. レイリー波 3. 表面フォノンポラリトン 4. 分散関係 5. 1次元自由電子モデルでの表面状態 6. 3次元結晶の表面状態 7. 光電子分光の一般論 8. バルク状態と表面状態からの光電子放出 9. 光電子放出の多体効果 10. 金属の表面バンド構造 11. 非占有表面電子状態とイメージポテンシャル状態 12. 半導体の表面状態 13. 化合物半導体の表面状態 14. 光電子分光と逆光電子分光 15. 演習 		
●教科書		
H. Luth, Solid Surfaces, Interfaces and Thin Films(4th edition), (Springer, Tokyo 2001)		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応:セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。		
達成目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性 		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。10.0点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。		
達成目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性 		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。10.0点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。		
達成目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. MBG結晶成長 2. ヘテロ構造デバイス 3. 共振トンネルデバイス 4. 半導体量子構造の輸送現象 5. 半導体量子構造の光学的性質 		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。10.0点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。	
達成目標	1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学	
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性	
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講し、超伝導プロセス・デバイスの基礎を学修する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	1. 超伝導現象 2. ジョセフソン接合 3. ジョセフソン回路	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講し、超伝導デバイス・回路について学修する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	1. ジョセフソン接合の物理と応用 2. ジョセフソン集積回路	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	高温超伝導に関するテキスト、文献を選び輪講し、そのデバイス応用について学修する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	1. 超伝導現象 2. 高温超伝導体 3. 高温超伝導ジョセフソン接合	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	高温超伝導デバイスに関するテキスト、文献を選び輪講し、その物理と応用について学ぶ。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	1. 高温超伝導の物理 2. 高温超伝導ジョセフソン接合と応用	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子スピンドデバイス工学セミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	情報ストレージのためのナノスピンドデバイスに関連した磁性薄膜の測定、評価技術について、テキスト、文献を用いて輪講をする。	
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学	
●授業内容	1. 交番磁界勾配磁力計 2. 走査型プローブ顕微鏡と磁気力顕微鏡 3. 磁気光学効果顕微鏡とx線磁気円偏光2色性顕微鏡 4. 反射高速電子回折法・低速電子回折法 5. 薄膜x線回折法 6. 走査電子顕微鏡・透過電子顕微鏡	
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。	
●参考書	必要に応じてセミナーで紹介する	
●成績評価の方法	口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子スピンドデバイス工学セミナー1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年後期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	情報ストレージのためのナノスピンドデバイスに関連した磁性薄膜の測定、評価技術について、テキスト、文献を用いて輪講をする。	
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学	
●授業内容	1. 真空蒸着と分子線エビタキシー 2. マグネトロン・スパッタリング 3. 光リソグラフィ 4. 収束イオンビーム加工 5. 電子ビーム描画と微細加工 6. エッチング技術	
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。	
●参考書	必要に応じてセミナーで紹介する	
●成績評価の方法	口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子スピンドデバイス工学セミナー1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2年前期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	情報ストレージのためのナノスピンドデバイスに関連した磁性薄膜の測定、評価技術について、テキスト、文献を用いて輪講をする。	
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学	
●授業内容	1. 多層膜の磁気異方性 2. 規則合金膜の構造と磁気異方性 3. 磁性多層膜の巨大磁気抵抗効果 4. トンネル磁気抵抗効果 5. 微小磁性体のスピン構造 6. 磁気光学効果と光磁気記録	
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。	
●参考書	必要に応じてセミナーで紹介する	
●成績評価の方法	口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子スピンドルデバイス工学セミナー1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2年後期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報ストレージのためのナノスピンドルデバイスに関連した磁性薄膜の測定、評価技術について、テキスト、文献を用いて論議をする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学		
●授業内容		
1. 磁気記録(長手記録と垂直記録) 2. 熱磁気記録 3. ハイブリッド磁気記録 4. 磁気ランダムアクセスメモリ		
●教科書		
教科書については、年度初めに適宜選定する。		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法		
口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	ナノ構造評価学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期 2年後期
教員	佐々木 勝寛 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
学部で学習した材料の物理学的知識を基礎として、材料の微細構造の評価および制御について理解を深める。特に、電子回折理論、分析電子顕微鏡法について学ぶ。達成目標 1. 電子回折理論に基づく電子顕微鏡像の解釈ができる。 2. 分析電子顕微鏡法の原理を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
材料物理学、結晶物理学、格子欠陥論		
●授業内容		
1. 格子欠陥と材料特性 2. 電子顕微鏡観察による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法材料の組織の評価		
●教科書		
教科書は指定しない。必要な資料を印刷して配布する。		
●参考書		
坂公恭著 「結晶電子顕微鏡学」内田老鶴園		
●成績評価の方法		
毎回出題する課題に対するレポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	ナノ構造解析学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 2年前期	
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、固体の原子構造、組成・状態、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析について講述する。 達成目標 1. 固体の原子構造の解析方法を理解し、説明できる。 2. 電子線を用いた固体表面の構造解析と物理分析の手法を理解し、説明できる。 3. 動力学的回折理論に基づき、二波近似で回折強度を計算できる。 4. シンクロトロン放射光及び利用法について理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、結晶物性、物性物理学		
●授業内容		
1. 固体の原子構造と結晶からの回折 2. 固体表面、薄膜およびナノスケール材料の構造解析と物理分析 3. X線回折の動力学的理論 4. シンクロトロン放射光とその利用法		
●教科書		
授業内容1と2は、プリントを用意する。授業内容3と4に関しては、図表のプリントを用意する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは同等である。授業内容に関する1つまたは2つの課題レポートで評価し、100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先: 齋藤弥八 ysaits@surf.mug.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一 akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子ビーム計測学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期 2年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム工学で用いられる各種検出器の動作原理及び性能に関わる基礎物理の理解を深めるとともに、最近の量子ビーム計測システムの構成技術、計測応用例とともに解説する。 達成目標 1. 量子ビーム検出器の物理、動作原理、基本性能の関連性を深く理解・説明できる。 2. 最近の量子ビーム計測システムの構成技術を理解・説明できる。 3. 最近の量子ビーム計測応用に関して知識を広め、その原理や特徴を理解・説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
1. 量子ビーム検出器開発の歴史と動向 2. 量子ビーム計測物理補遺 3. 気体電離検出器(ガス増幅技術、電荷担体の位置検出原理等) 4. 固体電離検出器(常温半導体検出器、極低温検出器等) 5. 液体電離検出器(帯ガス液体/常温液体/電離室等) 6. 発光型検出器(新素材シンチレータ、光電変換の要素技術等) 7. 最新計測システムの構成技術(微細加工利用、光ファイバーセンシング、多重デジタル波形信号処理等) 8. 最近の量子ビーム計測応用(工業利用、医療診断、分析技術等)		
●教科書		
教科書は特に指定しないが、下記参考書をもとにした講義資料を適宜配布する。講義の区切りごとに中間レポートを4回与えるので、講義資料をもとに十分復習を行うこと。		
●参考書		
量子ビーム計測技術関連の学術雑誌(例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum., J. Appl. Phys.など)からのレビュー的論文		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは同等である。4回の中間レポートに対し、各々25%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子ビーム物性工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期 2年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
放射光・イオンなど高エネルギー量子ビームが材料に与える作用の基礎過程とその効果の基礎概念、および、量子ビームを用いた材料の表面・界面およびナノ構造の分析に対する基礎を習得する。 達成目標：量子ビームと物質との相互作用と量子ビーム分析の基礎を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
材料物性学、放射線物性学、粒子線材料学、表面物性学		
●授業内容		
1. 表面の原子配列 2. 表面の電子状態 3. 原子分子の吸着と表面反応 4. 低速電子線回折 5. 反射型高速電子線回折 6. オージェ電子分光 7. 放射光光源 8. 光電子分析器 9. 角度分解光電子分光法 10. 内殻単位光電子分光法 11. X線分光とX線吸収分光の装置 12. X線吸収分光法：NE XAFS 13. X線吸収分光法：EXAFS 14. 軟X線分光と逆光電子分光 15. 赤外分光		
●教科書		
講義資料を配布する		
●参考書		
小間寛・八木克道・塚田捷・青野正和編著「表面化学入門」(丸善) 太田俊明編「X線吸収分光法-XAFSとその応用」(IPC出版部)		
●成績評価の方法		
レポート 質問への対応：授業終了時に対応する 担当教員連絡先：内線4683 k-soda@nucl.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子ナノデバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期 2年後期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本講義は、学部で学んだ半導体に関する知識をベースとして、ナノデバイスの研究を行うために必要な応用力を身につけることを目的とする。 達成目標 1. 半導体中の電子の振舞いを理解し、説明できる。 2. 重要な半導体ナノデバイスに関し、その動作原理・特性を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気物性基礎論、半導体工学、量子力学		
●授業内容		
1 Blochの定理の意味とk空間 2 Brillouin zone 3 有効質量とBloch振動 4 1, 2, 3次元における状態密度 5 電子統計 6 高濃度不純物ドーパド半導体 7 ヘテロ接合 8 バイポーラトランジスタ、ヘテロ接合バイポーラトランジスタ 9 MOSFET 10 高電子移動度トランジスタ (HEMT) 11 高周波特性評価と高速 デバイス設計 12 ナノデバイス、量子デバイス		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポート(10%)、筆記試験(90%)により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子集積デバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
単一電子や単一磁束量子の振る舞いを利用するデバイスについての基礎を学ぶ。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学、電子デバイス工学		
●授業内容		
1. 量子効果 2. 単一電子トンネリング 3. 単一電子制御素子 4. 超伝導の物理 5. 磁束の量子化 6. ジョセフソン接合 7. 超伝導量子干渉素子 (SQUID) 8. 単一磁束量子回路		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポートあるいは筆記試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	磁性体工学特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	結晶材料工学専攻 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期 2年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
磁性物理、磁性材料、磁性デバイスに関する基礎とその応用について講義する。達成目標 1. 磁性の基礎概念の理解。 2. 強磁性体の磁気特性の理解。 3. 強磁性体の新しい応用例の習得			
●バックグラウンドとなる科目			
電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学			
●授業内容			
1. 種々の秩序磁性 2. 磁気異方性と磁気ひずみ 3. 磁区構造と磁化機構 4. 磁性の微視的実験 5. 磁気記録からMRAMまで			
●教科書			
なし			
●参考書			
近角聡信、強磁性体の物理(上)(下)、裳華房			
●成績評価の方法			
筆記達成目標に対する評価の重みは同等である。試験で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	量子材料設計学特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期	
教員	村田 純教 准教授 寺田 芳弘 准教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
本講義は、構造用材料の設計において重要となる材料の力学的性質に関する基礎事項を、系統的に学習することを目的とします。弾性変形と塑性変形、原子レベルのミクロ的な立場から金属組織に関するマクロ的な立場まで、構造用材料の力学的性質に関する考え方を説明します。			
●バックグラウンドとなる科目			
材料設計学、材料微細構造解析学特論、材料強度学特論			
●授業内容			
本講義では、以下のテーマについて講義を行う。1. 弾性変形と原子間ポテンシャル、2. 塑性変形と理想強度、3. 結晶欠陥と転位、4. すべり系と標準ステレオ投影図、5. 単結晶と多結晶、6. 材料強化機構、7. 高温における塑性変形。			
●教科書			
特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。			
●参考書			
金属・合金の強度、幸島誠一著、日本金属学会 材料強度の基礎、高村仁一著、京都大学学術出版会 鉄鋼材料 - 講座・現代の金属学 -, 日本金属学会			
●成績評価の方法			
定期試験を実施し、55%以上獲得した者を合格とする。			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	量子基礎工学特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期	
教員	井上 順一郎 教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
スピントロニクス の概要と、その中の重要な分野である磁性と伝導とが関わる現象について学ぶ。最先端の研究状況について、具体的内容取り上げる。これらを学ぶ基礎として、固体の電子状態、電気伝導、磁性に関する内容を修得する。達成目標 1. 講義内容の各項目について説明できる。 2. 物理現象の理論的取り扱いが可能となる。			
●バックグラウンドとなる科目			
固体電子論、量子力学、統計力学			
●授業内容			
1. スピントロニクスとは 2. 固体の電子状態 3. 電気伝導の基礎 4. 金属の磁性 5. 磁性と伝導の関わる現象			
●教科書			
毎回プリントを配布する。			
●参考書			
なし			
●成績評価の方法			
レポート(70%)、簡単なテスト(30%) 履修条件・注意事項：特になし 質問への対応：講義終了時に対応する。連絡先：内線4445 incue@nuap.nagoya-u.ac.jp			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	エネルギー機能材料工学特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期	エネルギー理工学専攻 2年前期
教員	松井 恒雄 教授 橘原 淳司 准教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
量子エネルギー材料の熱物性、電子物性、結晶構造等について講述する。また、量子ビーム(放射光、中性子、イオンビーム、x線)等を用いた物性評価手法についての基礎知識を習得する。			
●バックグラウンドとなる科目			
熱力学、統計熱力学、電子物性、物性物理学、高温材料科学			
●授業内容			
1. 量子エネルギー材料(核分裂炉、核融合炉材料)の高温固体物性 2. 超イオン伝導体、超伝導体の構造と物性 3. 量子ビーム(放射光、中性子、イオンビーム)を用いた物性評価手法 4. 結晶構造解析の基礎			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			
レポート			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	電磁応用計測特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年後期 2年後期		
教員	河野 明廣 教授 佐々木 浩一 准教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
マイクロ波、赤外線、可視光線、紫外線を含む幅広いスペクトル領域の電磁波を、電気電子工学分野の計測(特に集積プロセスにかかわる計測)に応用するための理論的・技術的基礎について学ぶ。			
●バックグラウンドとなる科目			
電気磁気学、プラズマ工学、量子エレクトロニクス、固体物性基礎論			
●授業内容			
以下の分野から適宜主題を選定される。詳細な講義内容は第1回目の講義に示される。 1. 電磁波の放射の基礎理論(古典論・量子論) 2. 原子・分子分光学の基礎 3. 電磁波とプラズマの相互作用 4. レーザー・分光光源および光検出器 5. 電磁波・光によるプラズマ計測各論			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			
レポートまたは試験			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	半導体工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 2年前期	
教員	天野 浩 教授 山口 雅史 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
様々な機能を有するフォトニクスデバイスを理解し、高機能化・高効率化の指針を理解する方を修得するために、電磁気学、量子力学、熱力学・統計力学をもとに半導体、特に低次元半導体における様々な物理を理解し、その後、各種フォトニクスデバイスそれぞれの動作原理および設計指針を学ぶ。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、量子力学、固体電子工学、半導体工学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠陥、機械的性質、フォノン 2. バンド構造、直接遷移・間接遷移 3. 量子統計、ヘテロ構造 4. キャリア輸送 5. 電磁界を含むシュレーディンガー方程式 6. バンド間遷移、サブバンド間遷移 7. 熱力学基礎、バルク成長法 8. 薄膜・低次元構造成長法 9. 加工プロセス、電極、放熱構造 10. さまざまな顕微鏡、x線回折、光学・電気評価、元素分析 11. LED 12. LD 13. PD, PT 14. 太陽電池 		
●教科書		
天野のHPにアップするので、毎回印刷して受講すること。		
●参考書		
低次元半導体の物理 J.H. Davis著、橋沢字紀(Springer), The Physics of Semiconductors, Marius Grundmann(Springer)		
●成績評価の方法		
レポート(100%)により評価する。 履修条件・注意事項等：なし 質問への対応：講義終了時に対応 今年度担当教員連絡先：3321 amano@nuue.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	ナノプロセス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	堀 勝 教授 関根 誠 教授 近藤 博基 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノエレクトロニクス、ナノフォトニクス、バイオナノテクノロジーのためのナノ領域での原子、分子、ラジカル反応およびその操作原理を学び、先端ナノデバイス・システムを形成するためのナノプロセスの設計指針について講義する。 達成目標 1. ナノプロセスに必要な原子・分子反応手法を用いてナノプロセスを設計できる。 2. 先端デバイス・プロセスを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体工学、プラズマ工学、量子エレクトロニクス		
●授業内容		
1. 原子、分子、ラジカル反応場の基礎、2. 原子、分子操作技術、3. トップダウン型超微細加工、4. ボトムアップ型自己組織化プロセス、5. 半導体プラズマナノプロセス、6. ULSI超最先端デバイスプロセス、7. 量子コンピュータープロセス、8. バイオナノプロセス、9. フォトニックナノデバイスプロセス、10. ナノ反応場計測技術		
●教科書		
資料を配布する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポートあるいは筆記試験により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	川瀬 晃道 教授 西澤 典彦 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
レーザー理論・技術およびレーザー応用一般に関するアドバンスレベルの講義を行う。また、非線形光学効果に関する学習を行う。さらにテラヘルツ波工学に関する理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、光学、分光学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. レーザーの基礎 2. 各種レーザー技術 3. レーザー応用一般 4. 非線形光学 5. テラヘルツ工学 		
●教科書		
教科書については年度初めに適宜選定する。		
●参考書		
必要に応じて講義の中で紹介する。		
●成績評価の方法		
レポートまたは小テスト。 質問への対応：講義終了時に対応する。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子工学特別講義1 (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期後期 2年前期後期	
教員	非常勤講師(量子)	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子工学専攻で通常開講されている講義やセミナーでは補えない科目や最新の研究について学ぶとともに、量子工学との境界領域や社会(企業など)との接点に関する知識を習得することを目的とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子工学で開講されている講義科目全般		
●授業内容		
量子工学専攻で通常開講されている講義やセミナーでは補えない科目や最新の研究について、また、量子工学との境界領域や社会(企業など)との接点に関する学問領域について講義を行う。		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前後期 2年前後期
教員	非常勤講師 (量子)
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子工学専攻で通常開講されている講義やセミナーでは補えない科目や最新の研究について学ぶとともに、量子工学との境界領域や社会（企業など）との接点に関する知識を習得することを目的とする。	
●バックグラウンドとなる科目	
量子工学で開講されている講義科目全般	
●授業内容	
量子工学専攻で通常開講されている講義やセミナーでは補えない科目や最新の研究について、また、量子工学との境界領域や社会（企業など）との接点に関する学問領域について講義を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	佐々木 颯寛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得し、とくに、電子顕微鏡法の基礎を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を行える基礎を築く。	
●バックグラウンドとなる科目	
結晶物理学, 格子欠陥論, 材料物理学	
●授業内容	
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関する研究について下記の課題について理解を深めると共に、研究の素養を修得する。	
達成目標	
1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
物性物理学、電磁気学、回折結晶学	
●授業内容	
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。連絡先：齋藤弥八：ysaito@surf.nuge.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp、中原仁：nakahara@surf.nuge.nagoya-u.ac.jp、安坂幸輝：asaka@surf.nuge.nagoya-u.ac.jp	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
受講生ごとに与えられるオリジナルな実験・演習課題を通じて、最新の量子ビーム計測の要素技術を体験・習得し、理解を深める。	
達成目標	
1. 与えられた課題につき、関連基礎知識を修得し、課題解決の方策を考察できる。 2. シミュレーション計算等を用いて、与えられた課題の予備的な評価とともに実験・演習システムの設計・構築ができる。 3. 構築した実験・演習システムを用いて、課題の解答を導き出し、結果をまとめることができる。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学	
●授業内容	
1. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス 2. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス 3. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス の中から、学生ごとに個別に実験・演習課題を設定し、課題解決のプロセスについて、輪講形式で各自がレポート資料および口頭発表により説明し、質疑応答を行う。	
●教科書	
各実験・演習課題につき、入門的な教科書や資料を提供する。	
●参考書	
量子ビーム計測関連の学術雑誌（例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum. など）からのレビューまたは最新研究論文	
●成績評価の方法	
達成目標に対する評価の重みは同等である。 7回の進捗状況レポートおよび口頭発表につき、各々10%、最終的なとりまとめレポートおよび口頭発表につき、30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	量子ビーム物性工学特別実験及び演習 (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子ビームを用いて材料表面・界面やナノ構造を評価するのに必要な基礎的手法に関する理解を深める。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価法の基礎を理解し、説明できる。2) 量子ビームを用いて材料の表面・界面を評価できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
1. 表面・界面の作製 2. イオンビームを用いた物性評価 3. 電子ビームを用いた物性評価 4. 光を用いた物性評価	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	ナノデバイス工学特別実験及び演習 (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	水谷 孝 教授 岸本 茂 助教 大野 雄高 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
ナノデバイスの技術的基礎に関する理解を深めると共に、基本的な実験技術を修得する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質を測定、解析できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を測定、解析できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学	
●授業内容	
1. 半導体薄膜作製技術 2. 半導体ヘテロ構造作製技術 3. ナノ構造加工技術 4. ナノデバイス設計作製技術 5. ナノデバイス特性評価技術などから選択	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	量子集積デバイス工学特別実験及び演習 (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
超伝導集積デバイスの技術的基礎に関する理解を深めると共に、基本的な実験技術を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
量子力学、固体電子工学	
●授業内容	
1. 超伝導薄膜作製技術 2. ジョセフソン接合作製技術 3. 集積回路設計技術 4. 集積回路測定技術	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	量子スピンドデバイス工学特別実験及び演習 (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期 1年後期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
磁性薄膜材料およびナノスピンドデバイスの作製・評価技術を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学	
●授業内容	
1. 薄膜蒸着技術 2. 薄膜スパッタ技術 3. 人工格子膜成長技術 4. 微細加工技術 5. 磁性薄膜・微細加工デバイス評価技術	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実験及び演習
対象専攻・分野 開講時期	高度総合工学創造実験 (3単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	井口 哲夫 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
異なる専門分野からなる数人のチームを編成し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。その目的およびねらいは	
<ul style="list-style-type: none"> ・異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化 ・異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験 ・自己専門の可能性と限界の認識 ・自らの能力で知識を総合化 	
することである。	
●バックグラウンドとなる科目	
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。また、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」は産学連携教育関連科目と位置づけられる。これらの科目の履修を強く推奨する。	
●授業内容	
異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編成し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)(週1日)にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
実験の遂行、討論と発表会	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
対象専攻・分野 開講時期	研究インターンシップ (3単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。	
●バックグラウンドとなる科目	
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。	
●授業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。 	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上46日以下のものに与えられる。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
対象専攻・分野 開講時期	研究インターンシップ (4単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。	
●バックグラウンドとなる科目	
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。	
●授業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。 	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上ものに与えられる。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
対象専攻・分野 開講時期	研究インターンシップ (2単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。	
●バックグラウンドとなる科目	
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。	
●授業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。 	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	最先端理工学特論 (1単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。	
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 実験
対象専攻・分野 開講時期	最先端理工学実験 (1単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な実験に関する技術を習得することを目的とする。	
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
あらかじめ設定された実験(課題実験)あるいは受講者が提案する実験(独創実験)のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
演習(50%)、研究成果発表とレポート(50%)で評価する。100点満点で55点以上を合格とする	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	コミュニケーション学 (1単位) 全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	古谷 礼子 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。	
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
(1) ビデオ録画された論文発表を見る モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ (2) 発表する クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する (3) 討論する クラスメイトの発表を相互に評価し合う きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす	
●教科書	
なし	
●参考書	
(1) 「英語プレゼンテーションの技術」 安田 正、ジャック ニクリン著 The Japan Times (2) 「研究発表の方法」 留学生のためのレポート作成 口頭発表の準備の手続き」 産能短期大学日本語教育研究室 凡人社	
●成績評価の方法	
発表論文とclass discussion(平常点)の結果による	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	実践科学技術英語 (2単位) 全専攻・分野共通 1年前期 2年前期
教員	石田 幸男 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
英語で行われる自動車工学の最先端技術の講義を留学生とともに学ぶことによって、実践的な科学技術英語を習得するとともに、英語で小テーマについて発表し、議論することによって、プレゼンテーション技術を学ぶ。 達成目標 1. 英語で行われる自動車工学の講義を理解できる。 2. 技術的テーマについて取りまとめ、英語で説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
コミュニケーション学、科学技術英語特論	
●授業内容	
1. 自動車産業の現状 2. ドライバ運転行動の観察と評価 3. 自動車の材料・加工技術 4. 自動車の運動・制御 5. 自動車の予防安全 6. 自動車の衝突安全 7. 車搭載組込みコンピュータシステム 8. 自動車における通信技術 9. 自動車開発におけるCASE活用状況 10. 自動車における省エネルギー技術 11. 環境にやさしい燃料と自動車触媒 12. リサイクル 13. 自動車工業における生産システム 14. 15. 研究プロジェクト発表(2回に分けて行う)	
●教科書	
毎回プリントを配布する。	
●参考書	
講義の進行に合わせて適宜紹介する。	
●成績評価の方法	
評価方法：講義での出席と質疑(20%) 講義毎のレポート提出(20%) グループ研究でのプレゼンテーション(30%) グループ研究でのレポート提出(30%) 履修条件・注意事項等：受講人数制限あり(留学生約15名、名大生約15名) 工場見学にも参加すること。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	科学技術英語特論 (1単位) 全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	非常勤講師(子機)
備考	
●本講座の目的およびねらい	研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。
●バックグラウンドとなる科目	英語学に関する諸科目
●授業内容	外国人教員による英語の講義 1. 科学英語のための文法 2. 科学英語と技術論文 3. 国際会議における英語によるプレゼンテーション 4. 効果的な履歴書の書き方と応募の仕方 5. 科学技術のための英文E-mailの書き方
●教科書	
●参考書	石田他著、科学英語の書き方とプレゼンテーション、コロナ社
●成績評価の方法	発表内容、質疑応答、出席状況

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	ベンチャービジネス特論Ⅰ (2単位) 全専攻・分野共通 1年前期 2年前期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示す。
●バックグラウンドとなる科目	卒業研究、修士課程の研究
●授業内容	1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット--- 2. 事業化と起業 の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント--- 3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方--- 4. 事業化の推進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査--- 5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野 6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野 7. 名大発の事業化と起業(3): バイオ、医療分野 8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野 9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野 10. まとめ
●教科書	「ベンチャー経営心得機」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ その他、適宜資料配 布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	レポート提出および出席

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	ベンチャービジネス特論Ⅱ (2単位) 全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	田淵 雅夫 准教授 枝川 明敬 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	前期Ⅰにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家を交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解してもらう。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Ⅰを受講するのが望ましい。
●バックグラウンドとなる科目	ベンチャービジネス特論Ⅰ、卒業研究、修士課程の研究、経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。
●授業内容	1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと 経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング 戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点-IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収 益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの選定とまとめ 15. まとめ
●教科書	適宜資料配布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	授業中に出席される課題

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
対象専攻・分野 開講時期	学外実習A (1単位) 結晶材料工学専攻 1年前期後期 2年前期後期
教員	量子工学専攻 物質制御工学専攻 1年前期後期 2年前期 各教員(結晶材料) 各教員(量子工学) 各教員(物質制御)
備考	
●本講座の目的およびねらい	学外の民間企業、研究所等において一定期間の実習を行うことにより、実社会において工学の実践を体験する。大学内とは異なる環境において工学と社会との関わりを学ぶとともに、基礎学問の重要性を再認識する。
●バックグラウンドとなる科目	工学の基礎および各自の専門分野
●授業内容	1.
●教科書	特に指定しない。実社会が教科書である。
●参考書	特に指定しない。
●成績評価の方法	口頭発表およびレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
	学外実習B (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期後期 2年前期後期
教員	各教員(量子工学)
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>学外の民間企業、研究所等において一定期間の実習を行うことにより、実社会において工学の実践を体験する。大学内とは異なる環境において工学と社会との関わりを学ぶとともに、基礎学問の重要性を再認識する。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>工学の基礎および各自の専門分野</p>	
<p>●授業内容</p>	
<p>●教科書</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>●参考書</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>口頭発表およびレポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造評価学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。</p>		
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p>		
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価 		
<p>●教科書</p>		
<p>●参考書</p>		
<p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造評価学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。</p>		
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p>		
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価 		
<p>●教科書</p> <p>輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>		
<p>●参考書</p>		
<p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造評価学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。</p>		
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p>		
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価 		
<p>●教科書</p> <p>輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>		
<p>●参考書</p>		
<p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造評価学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようにする。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価		
●教科書		
輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造評価学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようにする。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学		
●授業内容		
1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価		
●教科書		
輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造解析学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。		
達成目標 1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノ構造解析学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。		
達成目標 1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、電磁気学、回折結晶学		
●授業内容		
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトロン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノ構造解析学セミナー2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期
	量子工学専攻 2年前期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。	
達成目標	
1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
物性物理学、電磁気学、回折結晶学	
●授業内容	
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノ構造解析学セミナー2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期
	量子工学専攻 2年後期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。	
達成目標	
1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
物性物理学、電磁気学、回折結晶学	
●授業内容	
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノ構造解析学セミナー2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 3年前期
	量子工学専攻 3年前期
教員	齋藤 弥八 教授 秋本 晃一 准教授 中原 仁 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子デバイスや半導体デバイスの基本動作原理に関わる、ナノスケール材料、半導体および金属の表面・界面の構造解析とその成長制御に関するテキストおよび文献を選び輪読・発表し、カーボンナノチューブ、表面界面に対する研究方法を習得するとともに、新規な物理現象について理解する。	
達成目標	
1. カーボンナノチューブに関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。 2. 表面界面に関する新規な物理現象のいくつかを理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
物性物理学、電磁気学、回折結晶学	
●授業内容	
1. カーボンナノチューブおよび関連物質の成長と構造 2. カーボンナノチューブ電子エミッタの特性評価とデバイス応用 3. シンクロトン放射光による表面・界面の研究 4. 半導体表面におけるナノ構造の形成と制御	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。担当教員連絡先：齋藤弥八：内線4459、ysaito@surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp、秋本晃一：内線4464、akimoto@cc.nagoya-u.ac.jp	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	量子ビーム計測工学セミナー2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年前期
	量子工学専攻 1年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。	
達成目標	
1. 与えられた小テーマにつき、関連知識を自力で修得し、課題発見とともに、独自の解決策を立案できる。 2. 発見した課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
量子ビーム計測学セミナー1-A, B, C, D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学	
●授業内容	
博士論文取りまとめに関して、適切な研究小テーマを選定し、文献調査、課題整理、解決法の検討および具体的な解析結果について報告および討論を行う。	
●教科書	
なし	
●参考書	
IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum., 等の学術雑誌における関連論文	
●成績評価の方法	
定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム計測工学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。		
達成目標		
1. 与えられた小テーマにつき、関連知識を自力で修得し、課題整理とともに、独自の解決策を立案できる。 2. 発見した課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。 3. 具体的な研究システムを構築し、独自に研究を進めることができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
博士論文取りまとめに関して、適切な研究小テーマを選定し、文献調査、課題整理、解法の検討および具体的な解析結果について報告および討論を行う。		
●教科書		
なし		
●参考書		
IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum, 等の学術雑誌における関連論文		
●成績評価の方法		
定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム計測工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。		
達成目標		
1. 小テーマ課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。 2. 具体的な研究システムを構築し、独自に研究を進めることができる。 3. 研究成果をとりまとめ、学術雑誌等へ論文投稿ができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。		
●教科書		
なし		
●参考書		
IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum, 等の学術雑誌における関連論文		
●成績評価の方法		
定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム計測工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。		
達成目標		
1. 研究システムを改良し、さらに小テーマ課題を発展させ、独自に研究内容を向上することができる。 2. 研究成果をとりまとめ、学術雑誌等へ論文投稿ができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。		
●教科書		
なし		
●参考書		
IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum, 等の学術雑誌における関連論文		
●成績評価の方法		
定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム計測工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。		
達成目標		
1. 研究システムを改良し、さらに小テーマ課題を発展させ、独自に研究を向上することができる。 2. 研究成果について、学術雑誌等への論文投稿とともに、博士の学位論文として系統的にとりまとめることができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学		
●授業内容		
博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。		
●教科書		
なし		
●参考書		
IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum, 等の学術雑誌における関連論文		
●成績評価の方法		
定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム物性工学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 3. 荷電粒子と物質との相互作用 4. 放射光を用いた表界面の物性評価 5. 電子分光による表界面の物性評価 6. イオンビームを用いた表界面の物性評価 7. 赤外分光による表界面の物性評価 8. 金属の電子構造と物性 9. 金属表面上分子の構造と反応 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 11. 半導体ナノ構造の電子状態 12. 電子系の励起と構造変化 13. 表面界面反応の制御 14. 関連する最新文献に関する討論 15. 最新研究結果の報告と討論 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応：セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム物性工学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 3. 荷電粒子と物質との相互作用 4. 放射光を用いた表界面の物性評価 5. 電子分光による表界面の物性評価 6. イオンビームを用いた表界面の物性評価 7. 赤外分光による表界面の物性評価 8. 金属の電子構造と物性 9. 金属表面上分子の構造と反応 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 11. 半導体ナノ構造の電子状態 12. 電子系の励起と構造変化 13. 表面界面反応の制御 14. 関連する最新文献に関する討論 15. 最新研究結果の報告と討論 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応：セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム物性工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 3. 荷電粒子と物質との相互作用 4. 放射光を用いた表界面の物性評価 5. 電子分光による表界面の物性評価 6. イオンビームを用いた表界面の物性評価 7. 赤外分光による表界面の物性評価 8. 金属の電子構造と物性 9. 金属表面上分子の構造と反応 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 11. 半導体ナノ構造の電子状態 12. 電子系の励起と構造変化 13. 表面界面反応の制御 14. 関連する最新文献に関する討論 15. 最新研究結果の報告と討論 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応：セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子ビーム物性工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 3. 荷電粒子と物質との相互作用 4. 放射光を用いた表界面の物性評価 5. 電子分光による表界面の物性評価 6. イオンビームを用いた表界面の物性評価 7. 赤外分光による表界面の物性評価 8. 金属の電子構造と物性 9. 金属表面上分子の構造と反応 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 11. 半導体ナノ構造の電子状態 12. 電子系の励起と構造変化 13. 表面界面反応の制御 14. 関連する最新文献に関する討論 15. 最新研究結果の報告と討論 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応：セミナー時に対応する		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	量子ビーム物性工学セミナー2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子エネルギー工学分野 3年前期
	量子工学専攻 3年前期
教員	曾田 一雄 教授 八木 伸也 准教授 加藤 政彦 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学
●授業内容	1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 3. 荷電粒子と物質との相互作用 4. 放射光を用いた表面の物性評価 5. 電子分光による表面の物性評価 6. イオンビームを用いた表面の物性評価 7. 赤外分光による表面の物性評価 8. 金属の電子構造と物性 9. 金属表面上分子の構造と反応 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 11. 半導体ナノ構造の電子状態 12. 電子系の励起と構造変化 13. 表面界面反応の制御 14. 関連する最新文献に関する討論 15. 最新研究結果の報告と討論
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口頭発表(60%)と質疑応答(40%) 質問への対応:セミナー時に対応する

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノデバイス工学セミナー2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
	量子工学専攻 1年前期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノデバイス工学セミナー2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
	量子工学専攻 1年後期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	ナノデバイス工学セミナー2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
	量子工学専攻 2年前期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノデバイス工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。		
達成目標		
1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。		
2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	ナノデバイス工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	水谷 孝 教授 大野 雄高 准教授 岸本 茂 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。		
達成目標		
1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。		
2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子集積デバイス工学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
超伝導現象に関するテキスト、文献を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学		
●授業内容		
1. 超伝導現象 2. 超伝導の巨視的振る舞い 3. 超伝導の微視理論		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子集積デバイス工学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
高温超伝導に関するテキスト、文献を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学		
●授業内容		
1. 高温超伝導の特徴 2. 異方的伝導特性 3. 固有ジョセフソン接合		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子集積デバイス工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ジョセフソン接合に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学, 固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョセフソン素子の分類 2. ジョセフソン効果 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 直流ジョセフソン効果 2.2 交流ジョセフソン効果 2.3 磁場応答 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子集積デバイス工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ジョセフソン接合の応用技術に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学, 固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョセフソン接合 2. SQUID 3. 単一磁束量子回路 4. X線検出器 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子集積デバイス工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 准教授 赤池 宏之 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学, 固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超伝導現象 2. ジョセフソン接合 3. ジョセフソン集積回路 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子スピンドデバイス工学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期	電子工学分野 1年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料およびナノスピンドデバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。	
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 磁気記録媒体 2. 磁気抵抗効果と磁気ヘッド 3. スピンの高速スイッチング機構 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子スピンドバイス工学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年後期	電子工学分野 1年後期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料およびナノスピンドバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学		
●授業内容		
1. 磁気光学効果と磁気光学材料 2. 熱磁気記録過程と記録方式 3. 光磁気記録		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子スピンドバイス工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2年前期	電子工学分野 2年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料およびナノスピンドバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学		
●授業内容		
1. 微細加工磁性膜のスピンド構造 2. 微細加工磁性膜の応用 3. パターン記録媒体		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子スピンドバイス工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2年後期	電子工学分野 2年後期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料およびナノスピンドバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学		
●授業内容		
1. スピンド注入 2. スピンド注入磁化反転		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	
	量子スピンドバイス工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 3年前期	電子工学分野 3年前期
教員	岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料およびナノスピンドバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学		
●授業内容		
1. スピンド注入磁化反転を用いた磁気ランダムアクセスメモリ 2. 近接場光学ヘッドを用いたハイブリッド磁気記録 3. スピンドトランジスタ		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口述試験		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工学科目 実習 実験指導体験実習 1 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	井口 哲夫 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立つ。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>特になし。</p>	
<p>●授業内容</p> <p>高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。</p>	
<p>●教科書</p>	
<p>●参考書</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>とりまとめと指導性</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工学科目 実習 実験指導体験実習 2 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、受講生の実験指導を通じて、後期課程学生の研究・教育及び指導者としての養成に役立つ。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>特になし。</p>	
<p>●授業内容</p> <p>最先端理工学実験において、担当教官の下で課題研究および独創研究の指導を行う。</p>	
<p>●教科書</p>	
<p>●参考書</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>	